

使用済自動車用鉛蓄電池のリサイクル (新自主スキームの運用状況)

平成25年8月7日

一般社団法人鉛蓄電池再資源化協会 (SBRA)

1. システムの概要

◆スキームの概要

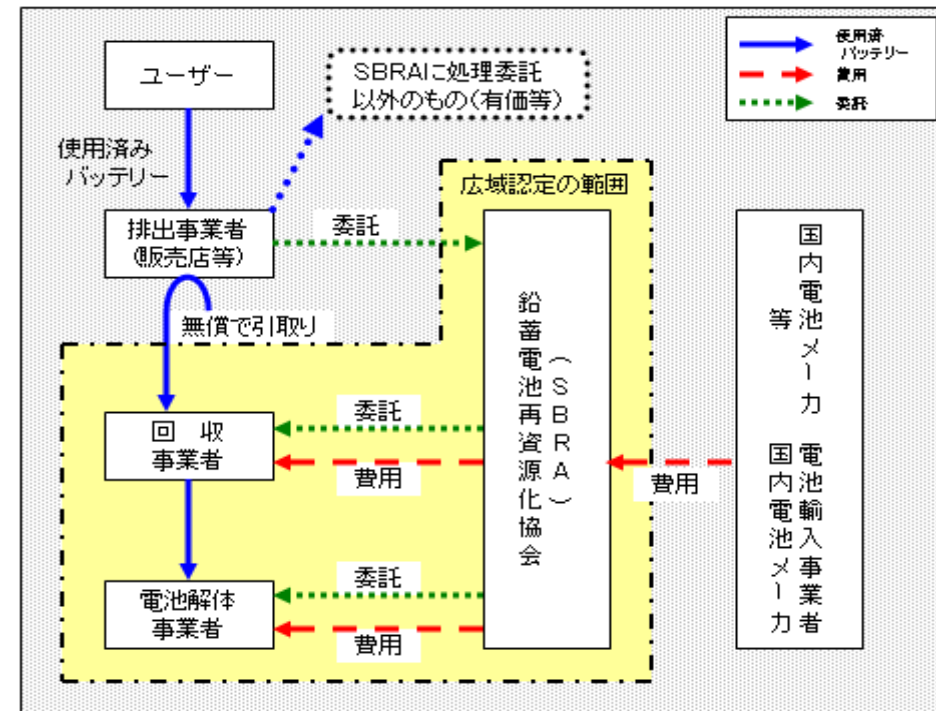
- ・自動車をはじめ、二輪車、農業機械、建設機械などでエンジン始動等に用いられる自動車用鉛蓄電池は、鉛、硫酸を含み、他の廃棄物と比べ処理が困難。
- ・このため、平成6年10月から、国内電池メーカー各社が自主的に再生鉛を購入することで回収・リサイクルを行う自主取組を開始。
- ・しかしながら、近年の輸入製品の増加等を背景として、自動車用鉛蓄電池の回収・リサイクルの実効性を確保し、継続的かつ安定的なシステムの実現を目指すため、平成24年に新自主スキームを構築。
- ・新自主スキームでは、SBRAが申請者となって「広域認定」を受け、廃棄物処理法に準じたリサイクル管理票を用い、SBRAの管理票情報システムにより、処理の一括管理を実施。

◆取り組み状況

- ・平成24年4月10日 広域認定取得
- ・ " 4月11日 限定運用開始
- ・ " 7月21日 本格運用開始

◆運用体制（平成25年6月末）

- ・参加メーカー等 : 7社
※国内電池メーカー4社、電池輸入事業者3社
- ・排出事業者（販売店等） : 6,728件
- ・回収事業者 : 87社
- ・バッテリー解体事業者 : 15社



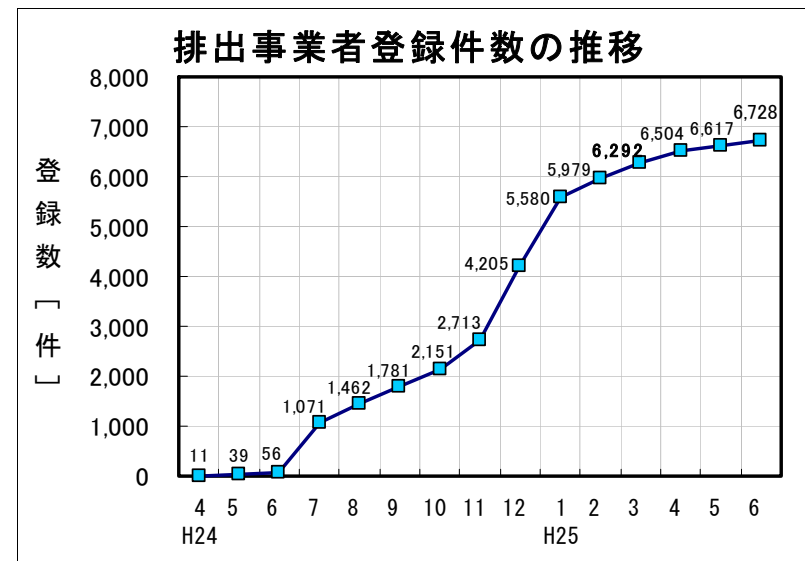
2. 排出事業者の登録

◆ 排出事業者(販売店等)への周知

- ・新自主スキームの排出事業者向けパンフレット
(説明書:約10万部)の配布と説明
- ・SBRAによる自動車用品販売団体等への説明
- ・SBRA会員の営業部門による個別販売店等への説明
- ・SBRAホームページへのパンフレット等掲載

◆ 排出事業者(販売店等)の登録状況

- ・積極的な周知活動の結果、排出事業者登録数は着実に増加(累計で6,728件)



業種別の排出事業者登録状況(平成25年6月末現在)

業 種	排出事業者		処理量		(参考)管理票交付回数※	
	登録数 [件]	比率 [%]	処理量 [トン]	比率 [%]	回数 [件]	比率 [%]
①部共販・カーディーラー	1,954	29.0	4,949	57.1	11,081	55.2
②ホームセンター・ディスカウントショップ	778	11.6	326	3.8	1,449	7.2
③カー用品専門店・カーショップ	593	8.8	987	11.4	2,415	12.0
④二輪販売店	576	8.6	107	1.2	689	3.4
⑤電装店・整備工場	563	8.4	267	3.1	855	4.3
⑥部品卸・電池販売店	455	6.8	745	8.6	648	3.2
⑦ガソリンスタンド	322	4.8	44	0.5	213	1.1
⑧自治体交通局等	23	0.3	30	0.3	29	0.2
⑨その他	1,436	21.3	1,181	13.6	2,646	13.2
⑩自動車解体業	2	0.0	0	0.0	0	0.0
⑪自治体	26	0.4	32	0.4	36	0.2
合 計	6,728	100	8,668	100	20,061	100

※排出事業者が排出するごとにリサイクル管理票を発行

3. リサイクルの実績

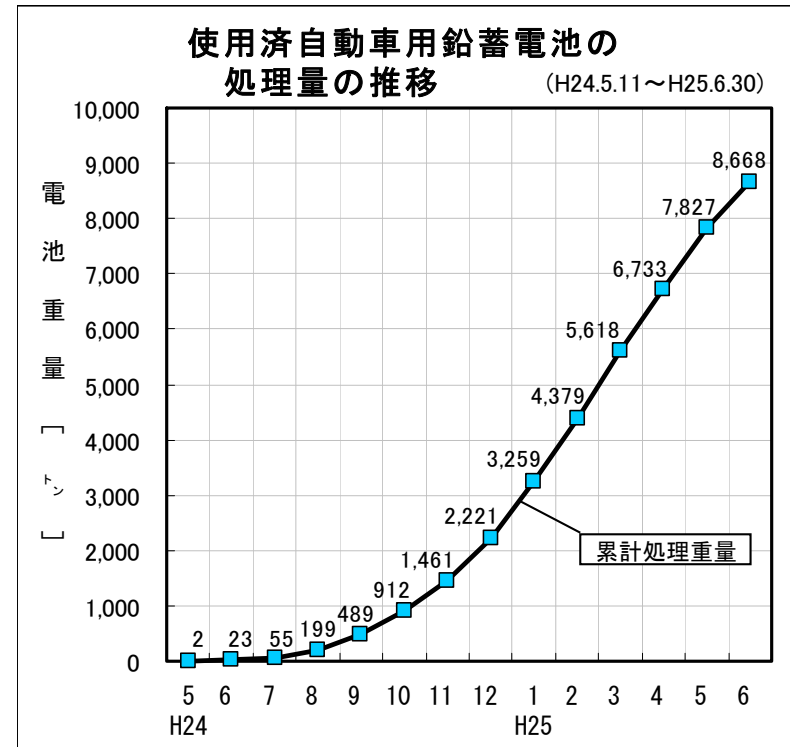
◆リサイクル処理状況(平成24年度)

- ・排出事業者登録数の増加に伴い、リサイクル処理量も着実に増加
- ・平成25年1月以降、リサイクル処理量は月平均千トンを維持
- ・今後、新自主スキームの更なる周知活動やシステム改善を通じた制度の定着を図る

リサイクル処理量と処理費用(平成24年度)

期間	リサイクル量 [トン(電池重量)] (処理完了分、仕掛は 含まず)	リサイクル費用 [百万円] (収集運搬・解体処理 費用)
上期累計 (5~9月)	371	16.7
下期累計 (10~3月)	4,876	204.7
H24年度累計	5,247	221.4

※リサイクル量・費用は毎月20日締め。
半期毎にホームページに掲載。



※処理量の推移は月末締めの数値。

4. 今後の取り組み

◆排出事業者登録の促進

- ・ 現状の詳細版パンフレットその他、周知活動に適した簡易版パンフレット作成・配布
- ・ 排出事業者からのニーズに応えた、排出事業者の責務等のパンフレットへの記載
- ・ 最新情報を掲載するなどホームページの充実化
- ・ その他本スキームに基づくメリット等の積極的な周知

◆適正処理のためのシステムの維持・改善

- ・ 回収依頼や処理実績報告等の誤入力をなくすためのシステムの操作性改善
- ・ 委託回収・解体事業者の監査を通じた管理・運用改善

◆離島等からの回収方法の検討

- ・ 昨年度から、離島等で発生した使用済自動車用鉛蓄電池に対する効率的・経済的な回収・リサイクルの実現に向け、最適な回収ルート、頻度、費用算定方法等について調査を開始。
- ・ 昨年度行った自動車及び家電業界団体へのヒアリングに続き、本年度は、実際の離島での鉛蓄電池の回収実態を調査するため、自治体や販売店等からヒアリングを実施する予定。